

沼津工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	工学基礎Ⅲ
科目基礎情報				
科目番号	2020-637	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	物質工学科	対象学年	1	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	工学基礎Ⅲ実験書, 実験実習安全必携			
担当教員	稲津 晃司, 芳野 恭士, 後藤 孝信, 竹口 昌之, 青山 陽子, 粟科 知之, 山根 説子, 伊藤 拓哉, 大川 政志, 古川 一実, 新井 貴司			

到達目標				
工学基礎ⅠおよびⅡで学んだ下記の項目について、物質工学科の基礎実験を通して実践する。 (1) 予習のためにあらかじめ実験書を読み、概要をつかむことができる (2) 必要な道具を持参して実験に取り組むことができる (3) 指示された時間に作業を開始できるように集まることできる (4) 実験に必要な安全な身なりを整えることできる (5) 必要に応じてメモをとりながら指示を聞き、指示内容を的確に把握することができる (6) 指示に従い、安全に作業を行なうことできる (7) 計画的に時間を使い、時間内に作業を終えることできる (8) チームで協力して作業をすることできる (9) 整理整頓を意識しながら、作業と片付けを行なうことできる (10) 必要な事項を時間内に簡単な報告書にまとめ、提出することできる (11) 工学には幅広い知識と視野が必要であることを理解し、その姿勢をもって物事に取り組むことできる				

ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
予習のためにあらかじめ実験書を読み、概要をつかむことできる	実験書を読み、概要を簡潔にまとめることできる	実験書を読み、概要をつかむことできる	実験書を読み、概要をつかむことできない	
実験に必要な安全な身なりを整え、必要な道具を持参して実験に取り組むことできる	実験に必要な安全な身なりを整え、必要な道具を忘れ物なく持参して実験に取り組むことできる	実験に必要な安全な身なりを整え、必要な道具をほぼ持参して実験に取り組むことできる	必要な道具を持参して実験に取り組むことできない	
指示された時間に作業を開始できるように集まることでき、指示に従い、安全に作業を行なうことできる	5分前行動を旨とし、指示された時間に作業を開始でき、安全に作業を行なうことできる	指示された時間に作業を開始でき、安全に作業を行なうことできる	指示された時間に作業を開始できるように集まることできず、安全に作業を行なうことできない	
必要な事項を時間内に簡単な報告書にまとめ、提出することできる	必要な事項を時間内に簡単な報告書にまとめ、提出することできる	必要な事項を簡単な報告書にまとめ、提出することできる	必要な事項を時間内に簡単な報告書にまとめ、提出することできない	

学科の到達目標項目との関係				
【本校学習・教育目標 (本科のみ)】 2				

教育方法等				
概要	21世紀の技術者に求められるのは、高い専門性と同時に、幅広い知識と視野である。1年生では、それらを習得するために必要な基本姿勢と安全確保のためのルールを学ぶ。座学では工学基礎Ⅰ、実験では工学基礎Ⅱとして「機械」、「電気」、「情報」、「化学」、「もの作り」の5つの分野から選ばれた基礎的な10の実験をとおして共通の工学における基本姿勢(安全・整理・整頓・しつけ・清潔・時間厳守・工学的なものの方)を学んだ学生が、自らの専門分野である物質工学科の基礎実験で実践する。実験を安全かつ正確に行うために、実験書を読み、概要を理解しておくことが必要である。よって、学生は事前に予習ノートを作成し、教員が準備を確認したうえで実験を行う。実験を行ったのちは報告書を作成し、どのような事柄が報告に必要な事項であるかも学び、作成方法を身につける。			
授業の進め方・方法	6つの実験実習を行う。下記の項目の順は、カレンダーにより入れ替わることがある。 実験1. ビュレットを用いたビタミンCの定量(分析化学) 実験2. ヨウ素デンプン反応を利用したアミラーゼ活性の観察(生物化学) 実験3. 光学顕微鏡を用いた微生物の観察(微生物工学) 実験4. ヘスの法則(総熱量保存の法則)(物理化学) 実験5. 化学電池の作成(物理化学) 実験6. 石けんの合成(有機化学) 進め方は、①予習ノートの作成、②解説、③実験、④報告書作成の順に行う。 実験中は各実験班において、グループ内で協力し合って安全に実験を遂行するように意識すること。			
注意点	評価については、評価割合に従って行います。ただし、適宜再試や追加課題を課し、加点することがあります。			

授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	化学・生物実験のガイダンス(1)	化学・生物実験をする上での諸注意、安全教育を理解することができる。
		2週	①ビュレットを用いたビタミンCの定量	ビュレットを用いたビタミンCの定量について理解できる。
		3週		ビュレットを用いたビタミンCの定量実験を行い、指定された報告書を書くことができる。
		4週	②ヨウ素デンプン反応を利用したアミラーゼ活性の観察	ヨウ素デンプン反応によるアミラーゼ活性について理解できる。
		5週		ヨウ素デンプン反応によるアミラーゼ活性を測定する実験を行い、指定された報告書を書くことができる。
		6週	③光学顕微鏡を用いた微生物の観察	光学顕微鏡を用いた微生物の観察方法について理解できる。
		7週		光学顕微鏡を用いて微生物の観察を行い、指定された報告書を書くことができる。
		8週	化学・生物実験のガイダンス(2)	各実験の背景となる原理、実験ノート、レポートの書き方等について理解できる。
	4thQ	9週	④ヘスの法則(総熱量保存の法則)	ヘスの法則について、理解することができる。

	10週		ヘスの法則について実験を行い、指定された報告書を書くことができる。
	11週	⑤化学電池の作成	化学電池について理解することができる。
	12週		化学電池について条件を変更した際の測定実験を行い、指定された報告書を書くことができる。
	13週	⑥石けんの合成	石けんの合成と性質について理解できる。
	14週		石けんの合成実験を行い、指定された報告書を書くことができる。
	15週	後期のまとめ	学習内容の振り返りと自己評価およびアンケートにより学習内容をまとめることができる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	後3,後5,後7,後9,後11,後13
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	後3,後5,後7,後9,後11,後13
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	後2,後4,後6,後9,後11,後13
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	予習ノート	報告書	服装・忘れ物なし・協力	合計
総合評価割合	25	65	10	100
取組み姿勢(準備・安全)	25	0	5	30
レポート作成能力	0	65	0	65
チーム作業能力	0	0	5	5